

新しいお札の偉人は どんな人？



今年の9月にツイッターで日本銀行が「じゃーん！」というコメントとともに、2024年度から変更予定の新札の見本画像を公開していました。最新のお札は偽造防止の策として、今までの技術に加え3Dホログラム技術やユニバーサルデザインなど様々な技術が盛り込まれています。今回はそんな新しいお札の顔になる3人の偉人についてご紹介します。

渋沢栄一（しぶさわ えいいち）

国立銀行の設立や、500種類以上の事業を設立させ、日本経済を発展させた「日本資本主義の父」と呼ばれています。また、教育事業の発展にも取り組み、その生涯で150校以上の教育機関の設立や運営に携わってきました。



津田梅子（つだ うめこ）

女子教育と女性の地位を向上させるために尽力し、日本における「女子教育の先駆者」と言われています。また、東京都小平市にある津田塾大学の設立者でもあります。

北里柴三郎（きたざと しばさぶろう）

「日本の細菌学の父」として知られ、ペスト菌を発見し、破傷風の治療法も開発するなど、感染症医学の発展に貢献しました。現千円札の野口英世も北里柴三郎のもとで研究をしていました。



今までお札になったことのある偉人の伝記や、著作の現代語訳が、図書館にはあります。どのような偉業を成し遂げ、お札に選ばれたのか、また、気になる偉人がいれば、図書館で調べてみてはいかがでしょうか。

Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.45 2021.10

清瀬市立図書館

なぜ僕らは働くのか

池上 彰／監修
学研プラス



”働く”とは？ ”生きる”とは？仕事、お金、働きがい、ライフワークバランス、多様性の尊重、SDGs、人生100年時代…、働くうえで考えるべき様々なテーマをマンガと図解で分かりやすく伝えています。

世の中のしくみや様々な仕事を紹介され、自分がどう生きてら幸せかを考えるきっかけになり、自分の持つ大きな可能性に気づき、行動する勇気を与えてくれる一冊になります。

様々な職種の働く人の声や「仕事を始めてからも夢は見つかる。」という内容が印象的。中高生だけでなく、自分に合った仕事を模索している大人にもぜひ読んでいただきたい本です。

〈駅前図書館 中嶋〉

竜とそばかすの姫

細田 守／著
KADOKAWA



ストーリーの根底にあるのは「愛」。本当はいつだって誰かが見守ってくれている。そのことに気づくか気づかないかで、目の前に見える景色が全く違ったものになってしまう。

17歳の鈴は、毎朝鏡をみては頬のそばかすが憂鬱です。母親を事故で失い、父親とはまともに話さず、心を閉ざしがちの日々。ある日鈴は、インターネットの仮想世界にデビューを果たし称賛を得ますが…。

仮想世界で満足するのも、現実世界を嘆くだけでも少し違う、すがすがしい読後感を味わってください。

〈下宿図書館 鶴岡〉

あなたは、ペットを飼っていますか？この本の著者は、小学六年生。おうちは温泉旅館を経営していて、その庭に「猫庭」という建物があり、三十四ほどの猫が暮らしています。著者は、その「猫庭」の館長さんなのです。

「猫庭」が生まれるきっかけから、暮らしぶり、猫をはじめとする動物たちが置かれている環境のことなどが語られています。

長くペットとともにいると、「一緒に暮らしている。一緒に生きている」という感覚になると聞いたことがあります。その気持ちが伝わる一冊です。猫たちの写真もたくさん収録されています。

〈野塩図書館 伊藤〉

猫庭ものがたり

手島 姫萌／著
朝日出版社



学校では教えてくれない ゆかいな漢字の話

今野 真二／著
河出書房新社



「鸚哥」や「新地位蘭土」、「舌克斯畢」、皆さんはこの3つの熟語が読めますか。正解は順番に「インコ」「ニュージーランド」「シェークスピア」です。この本は、タイトルにあるように学校では教えてくれない漢字について、面白く教えてくれます。

冒頭で、『鬼滅の刃』の登場人物の難しい苗字の意味などにも少し触れられているほか、漢字の形や発音、意味、歴史について、また、なぜ音読みと訓読みがあるのかなど、興味深い知識を得ることができます。

漢字は勉強と思う人が多数だと思いますが、この本を読んでいくと漢字が遊びのように楽しく、面白いものに見えるはずです。

〈中央図書館 根岸〉